


# KVK 流し台用ハンドシャワー付シングルレバー式混合栓 (シャワー引出式) KM348(Z)(MS) (各仕様共通) 施工説明書

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。  
この施工説明書と取扱説明書を必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

## 安全上のご注意

- ここに示した **注意** は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 この絵表示は、してはいいない「禁止」の内容です。

 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

### 注意

湯水を逆に配管しないでください。



水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。



器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。



凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。配管などの解氷の為、解氷機をご使用の場合は水性部には絶対に遠慮しないでください。

施工完了後は、配管接続部及び器具から水漏れのないことを確認してください。



漏水で、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

## 使用条件

① 使用水圧〔A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ

設定条件 水温: 25°C 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開

〔比例制御式〕

最低必要水圧	最高水圧
A+0.10MPa	0.75MPa

(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕

最低必要水圧	最高水圧
A+80.0KPa	0.75MPa

- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くする、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

## 取り付け後の点検と清掃

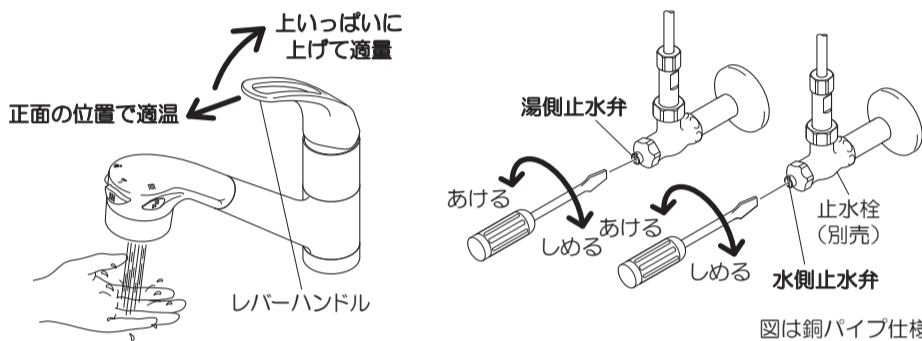
### シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書の日常の保守・点検・お手入れ 参照

### 湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で湯温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



図は銅パイプ仕様

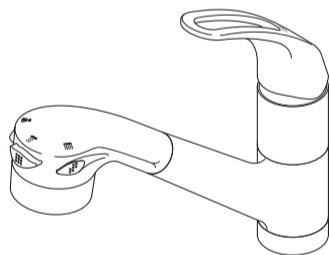
### 故障かなと思ったら...

故障かなと思ったら、修理を依頼される前にまず各部の点検をしてください。

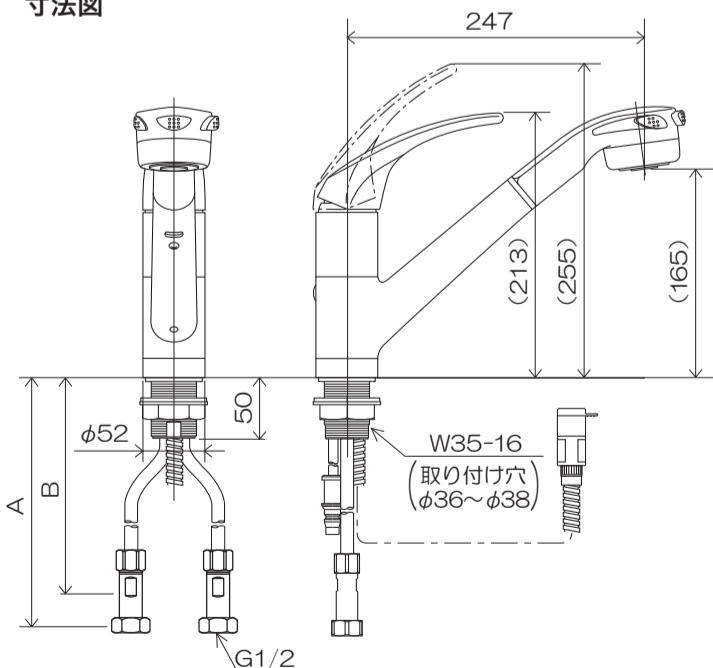
➡ 取扱説明書の日常の保守・点検・お手入れ 参照

## 本体外観図と寸法図と分解図

### 本体外観図

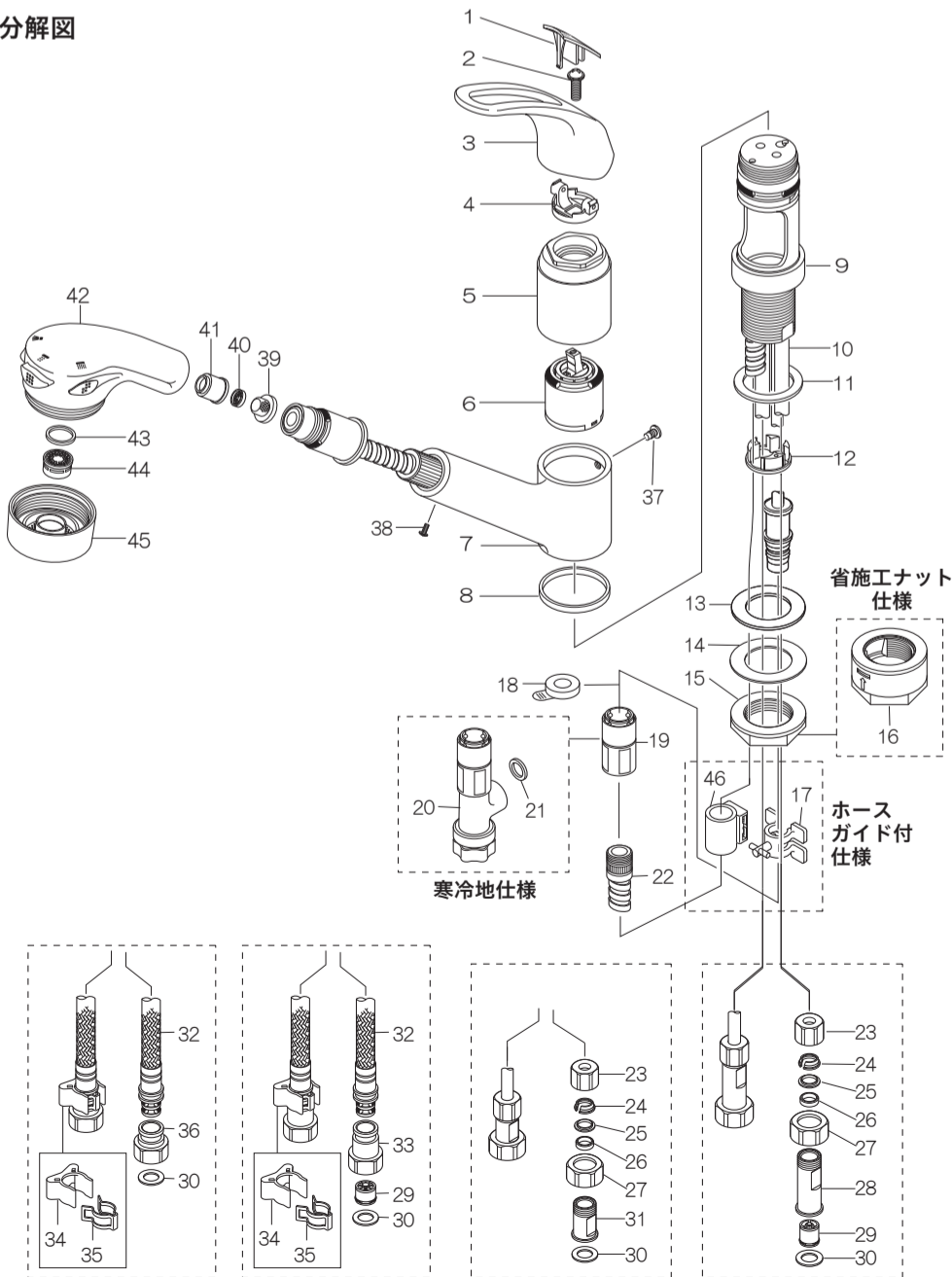


### 寸法図



仕様	A寸法	B寸法
KM348	339	318
KM348Z	322	318
KM348MS	415	384
KM348ZMS	403	384

### 分解図



1	キャップ
2	ビス
3	レバーハンドル
4	エコノッチユニット
5	固定ナット
6	カートリッジ
7	吐水口
8	スリップ板
9	本体
10	銅パイプ
11	シートパッキン(白)
12	銅パイプ固定プッシュ
13	輪パッキン(黒)
14	スリップ板
15	フランジ
16	省施工ナット
17	ホースガイドA
18	キャップ
19	カブラーユニット
20	水抜きユニット
21	パッキン
22	シャワーホース
23	ナット
24	くい込みスリーブ
25	スリーブ
26	パッキン
27	ナット
28	逆止弁ジョイント
29	逆止弁
30	パッキン
31	ジョイント
32	ブレードホース
33	ジョイント
34	保護キャップ
35	クイックファスナー
36	ジョイント
37	ビス
38	ビス
39	ストレーナ
40	定流量弁
41	ソケット
42	シャワーヘッド
43	輪パッキン
44	泡沫器
45	シャワーフェイス
46	ホースガイドB

ブレードホース 逆止弁無し仕様

ブレードホース 逆止弁付仕様

銅パイプ 逆止弁無し仕様

銅パイプ 逆止弁付仕様

# KVK 流し台用ハンドシャワー付シングルレバー式混合栓 (シャワー引出式) 施工説明書

## KM348(Z)(MS) 〈各仕様共通〉

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。  
この施工説明書と取扱説明書を必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

### 安全上のご注意

- ここに示した **注意** は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはけない「禁止」の内容です。

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

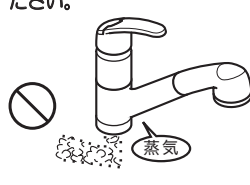
### 注意

湯水を逆に配管しないでください。



水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。



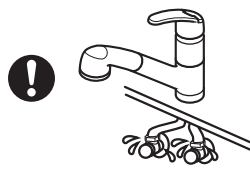
器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。



凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。配管などの解凍の高、解凍機をご使用の場合は水栓部には絶対に通電しないでください。

施工完了後は、配管接続部及び器具から水漏れのないことを確認してください。



漏水で、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

### 使用条件

① 使用水圧〔A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ

設定条件 水温：25℃ 給湯機温度調節：高温 吐水温度：42℃ ハンドル全開

〔比例制御式〕

最低必要水圧	最高水圧
A+0.1MPa	0.75MPa

(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕

最低必要水圧	最高水圧
A+80.0KPa	0.75MPa

- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

### 取り付け後の点検と清掃

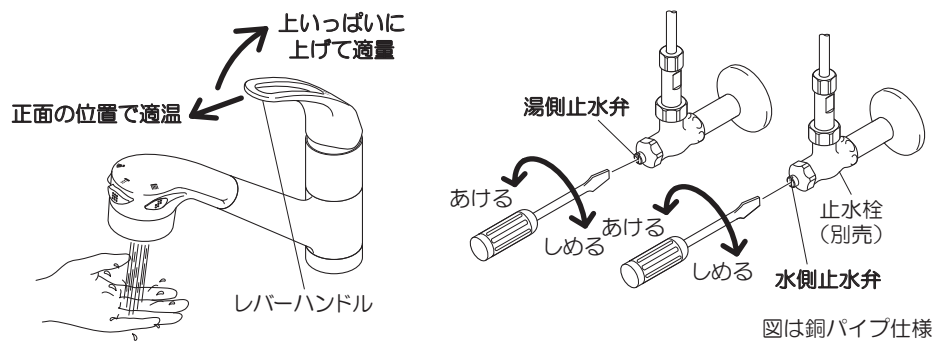
#### シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書の日常の保守・点検・お手入れ 参照

#### 湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で湯温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



図は銅パイプ仕様

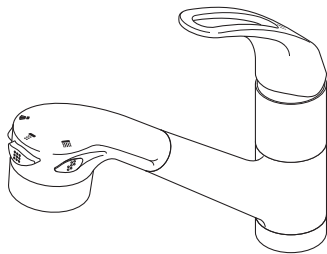
#### 故障かなと思ったら…

故障かなと思ったら、修理を依頼される前にまず各部の点検をしてください。

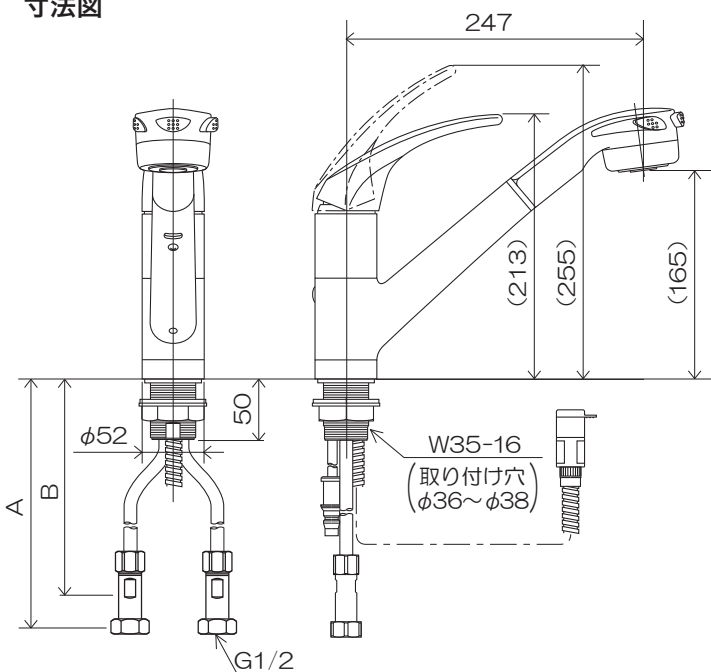
➡ 取扱説明書の日常の保守・点検・お手入れ 参照

### 本体外観図と寸法図と分解図

#### 本体外観図

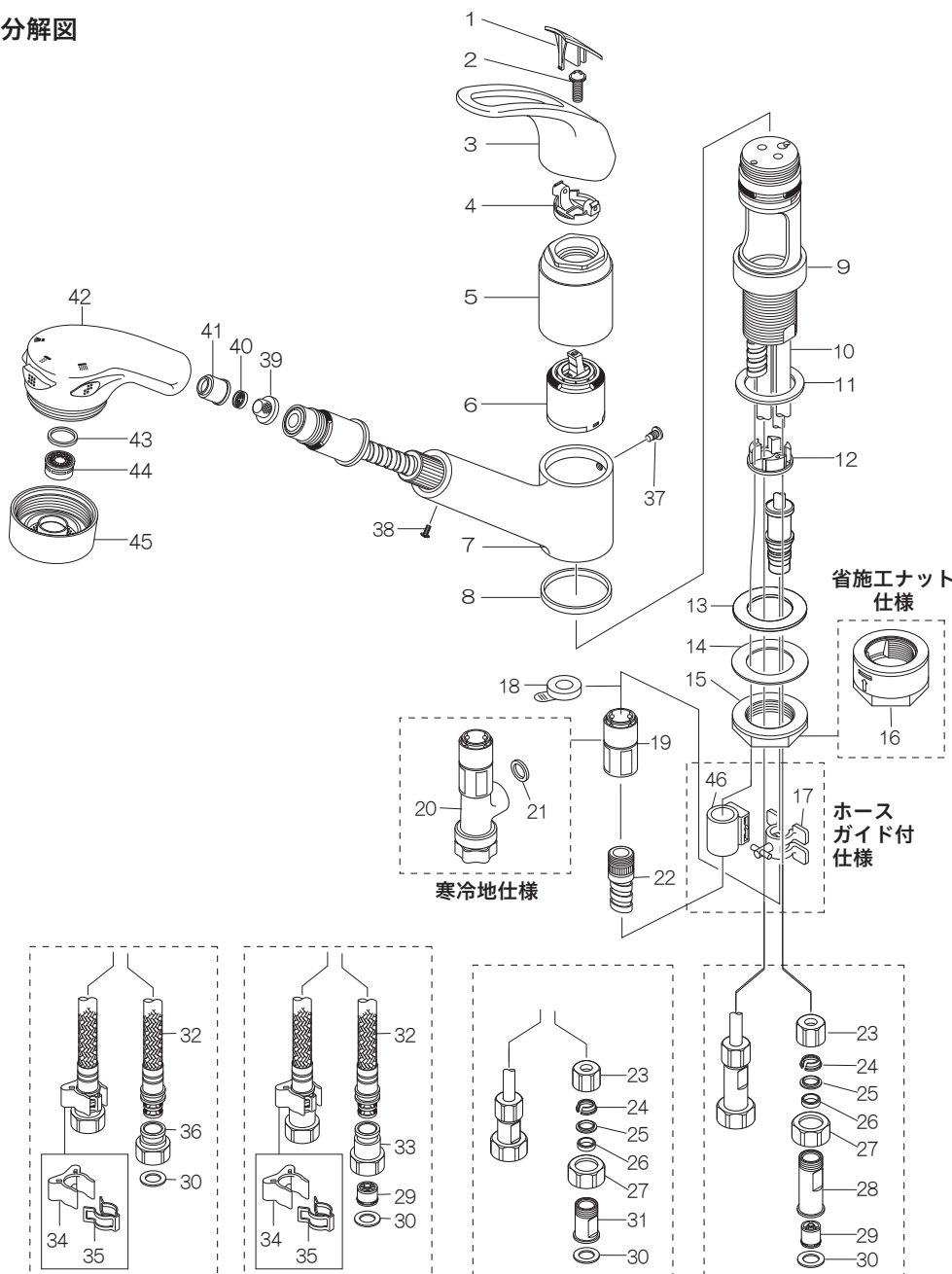


#### 寸法図



仕様	A寸法	B寸法
KM348	339	318
KM348Z	322	
KM348MS	415	384
KM348ZMS	403	

#### 分解図



1	キャップ
2	ビス
3	レバーハンドル
4	エコノッチユニット
5	固定ナット
6	カートリッジ
7	吐水口
8	スリップ板
9	本体
10	銅パイプ
11	シートパッキン(白)
12	銅パイプ固定ブッシュ
13	輪パッキン(黒)
14	スリップ板
15	フランジ
16	省施工ナット
17	ホースガイドA
18	キャップ
19	カプラーユニット
20	水抜きユニット
21	パッキン
22	シャワーホース
23	ナット
24	くい込みスリーブ
25	スリーブ
26	パッキン
27	ナット
28	逆止弁ジョイント
29	逆止弁
30	パッキン
31	ジョイント
32	ブレードホース
33	ジョイント
34	保護キャップ
35	クイックファスナー
36	ジョイント
37	ビス
38	ビス
39	ストレーナ
40	定流量弁
41	ソケット
42	シャワーヘッド
43	輪パッキン
44	泡沫器
45	シャワーフェイス
46	ホースガイドB

ブレードホース 逆止弁無し仕様

ブレードホース 逆止弁付仕様

銅パイプ 逆止弁無し仕様

銅パイプ 逆止弁付仕様

### 1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

### 2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。  
(水受けタンクを設置する場合、水受けタンクと止水栓が当たらないように間隔を空けてください。)  
止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓      水抜き栓付止水栓

止水栓(別売)

### 3 本体の仮固定

取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように本体を仮固定します。(ブレードホース仕様は完全に固定してください。)  
その際、本体に貼り付けてあるシートパッキンのセパレート紙をめくって、固定してください。  
又、銅パイプ固定プッシュがしっかりとまっていることを確認してください。外れている場合は、しっかりとめ込んでください。  
【注意】シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けると破損の恐れがありますので、これらは持たないでください。

セパレート紙をめくって両面テープで固定  
シートパッキン(本体に貼り付け)  
取り付け穴 φ36~38  
銅パイプ固定プッシュ(白)はまっているか確認  
輪パッキン(黒) スリップ板 フランジ(又は省施工ナット)

省施工ナット仕様の場合  
ネジ部がスライドして上へ上がります。  
② 締め付ける  
① 上へ押し上げる 天板にあたるまで上へ押し上げる

ブレードホース仕様の場合  
フランジ(又は省施工ナット)を通す時は、ブレードホースの先端部のひとつを上にするように通します。

先端面は上へ押し上げる  
フランジ(又は省施工ナット)

取り付けには専用工具G11(別売)を使用すると便利です。

図はフランジ仕様

### 4-2 止水栓との接続 (逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。)

#### ① 各銅パイプの長さを調節

逆止弁ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、切断してください。  
このとき、パイプの差し込み代25mm確保してください。  
【注意】銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

【注意】銅パイプの差し込み代  
銅パイプ  
差し込み代 25mm  
逆止弁ジョイント

#### ② 逆止弁ジョイントの接続部品

ナット・くい込みスリーブ・スリーブ・パッキンを逆止弁ジョイントからはずし、銅パイプ側へはめ込みます。

#### ③ 逆止弁ジョイントの固定

逆止弁ジョイントを銅パイプ側へはめ込んでから止水栓と接続します。  
【注意1】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。  
締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。  
(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
【注意2】薄肉の接続管(ニップル等)には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れる可能性があります。  
【注意3】止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。  
固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

#### ④ 3で仮固定していた本体を工具でしっかりと締め付けます。

#### ⑤ 銅パイプの固定

逆止弁ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しナットを締め付けて、銅パイプと逆止弁ジョイントを接続します。  
【注意】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。  
締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。  
(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
(8ページの5/シャワーホースの接続へ)

### 止水栓との接続 (銅パイプ仕様の場合)

#### 4-1 銅パイプの配管

止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。  
図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となります。  
【注意】銅パイプの抜け防止の為、給水・給湯配管は動かさないように固定してください。

図1 銅パイプ固定プッシュ(白)はずれないように  
銅パイプ 止水栓

図2 水平部分が長い  
直角な曲げ  
銅パイプ 止水栓

### 止水栓との接続 (ブレードホース仕様の場合)

#### 4 止水栓との接続 (逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様とも接続方法は同じです)

#### ① ジョイントを止水栓に接続します。

【注意1】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。  
締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。  
(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
【注意2】薄肉の接続管(ニップル等)には、ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れる可能性があります。  
【注意3】止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。  
固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

ジョイント 止水栓(別売) スパナ等

#### ② ブレードホースをジョイントにはめ込みます。

この時、ブレードホースはなるべくゆるやかに曲げてください。急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損の原因で漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

【注意1】  
・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。  
・鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)  
・上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動すると、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。  
・ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。  
・ブレードホースを曲げる際、銅パイプ固定プッシュがはずれない様に注意してください。(C図)

【注意2】ブレードホースは切断しないでください。

【注意】つば すぎ間なく合うまで差し込む

はめ込む

ジョイント

ブレードホース

銅パイプ固定プッシュ(白)はずれないように

A図 B図 C図

#### ③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばに、はめます。

【注意1】ブレードホースを上へ引っばって、抜けないことを確認してください。

ブレードホース

ジョイント

クイックファスナー

はめ込む

#### ④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。

この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで降ろします。

1. はめる  
2. 降ろす

保護キャップ

クイックファスナー

ジョイント

ブレードホース

### 5 シャワーホースの接続 (ホースガイド付き・無し仕様、またそれぞれの一般地・寒冷地仕様によって接続方法は異なります)

ホースガイド付き仕様	ホースガイド無し仕様	接続方法 (各仕様の順番に従って行ってください)
一般地仕様	一般地仕様	同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。 【注意】ホースガイドは壁面に固定しないでください。
寒冷地仕様	寒冷地仕様	シャワーホースに付いているホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、(1)ホースガイドAにはめ、(2)カプラーユニットが下向きになるように90度回転させます。 【注意1】固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。 B図のように、銅パイプ(又はブレードホース)に引っ掛けたり、ひねったりしないでください。 【注意2】ホースガイドAとBを横から見ると、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。(C図)
一般地仕様	一般地仕様	上記と同様に、(1)同梱のホースガイドBをホースガイドAにはめ込み、(2)シャワーホースをホースガイドBに上から通します。
寒冷地仕様	寒冷地仕様	同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。 【注意1】締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約200N・cm) 【注意2】カプラーは樹脂製ですので、手で固く締め付けてください。シャワーホースをねじらないでください。 【注意3】シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけたください。破損する恐れがあります。
一般地仕様	一般地仕様	カプラーユニット(寒冷地仕様は水抜きユニット)はキャップをはずし、スライダーを下に降ろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下に降りている場合もあります。)最後に確実に接続されているか確認します。

※ 図はホースガイド付仕様

【注意】シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶらさけ取り付けしてください。

### 1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

### 2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。  
(水受けタンクを設置する場合、水受けタンクと止水栓が当たらないように間隔を広げてください。)  
止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓 止水栓(別売)

### 3 本体の仮固定

取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面向くように本体を仮固定します。(ブレードホース仕様は完全に固定してください。)  
その際、本体に貼り付けてあるシートパッキンのセパレート紙をめくって、固定してください。  
又、銅パイプ固定プッシュがしっかりはまっていることを確認してください。外れている場合は、しっかりとはめ込んでください。  
【注意】シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けると破損の恐れがありますので、これらは持たないでください。

セパレート紙をめくって両面テープで固定  
シートパッキン(本体に貼り付け)  
取り付け穴φ36~38  
銅パイプ固定プッシュ(白)はまっているか確認  
輪パッキン(黒) スリップ板 フランジ(又は省施工ナット)  
取り付けには専用工具G11(別売)を使用すると便利です。

省施工ナット仕様の場合  
ネジ部がスライドして上へ上がります。  
② 締め付ける ① 上へ押し上げる 天板にあたるまで上へ押し上げる

ブレードホース仕様の場合  
フランジ(又は省施工ナット)を通す時は、ブレードホースの先端部のひとつを上にするように通します。

### 止水栓との接続(銅パイプ仕様の場合)

#### 4-1 銅パイプの配管

止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。  
図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となります。  
【注意】銅パイプの抜け防止の為、給水・給湯配管は動かないように固定してください。

図1 短い 長い  
銅パイプ 止水栓  
銅パイプ固定プッシュ(白)はずれないように

図2 水平部分が長い 直角な曲げ  
銅パイプ 止水栓

### 4-2 止水栓との接続(逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです)

#### ① 各銅パイプの長さを調節

逆止弁ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、切断してください。  
このとき、パイプの差し込み代25mm確保してください。  
【注意】銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

【注意】銅パイプの差し込み代  
銅パイプ 差し込み代 25mm 逆止弁ジョイント

#### ② 逆止弁ジョイントの接続部品

ナット・くい込みスリーブ・スリーブ・パッキンを逆止弁ジョイントからはずし、銅パイプ側へはめ込みます。

#### ③ 逆止弁ジョイントの固定

逆止弁ジョイントを銅パイプ側へはめ込んでから止水栓と接続します。  
【注意1】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
【注意2】薄肉の接続管(ニップル等)には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れる可能性があります。  
【注意3】止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

#### ④ ③で仮固定していた本体を工具でしっかり締め付けます。

#### ⑤ 銅パイプの固定

逆止弁ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しナットを締め付けて、銅パイプと逆止弁ジョイントを接続します。  
【注意】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
(8ページの5/シャワーホースの接続へ)

### 止水栓との接続(ブレードホース仕様の場合)

#### 4 止水栓との接続(逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様とも接続方法は同じです)

#### ① ジョイントを止水栓に接続します。

【注意1】接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)  
【注意2】薄肉の接続管(ニップル等)には、ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れる可能性があります。  
【注意3】止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

ジョイント 止水栓(別売) しめる スパナ等

#### ② ブレードホースをジョイントにはめ込みます。

この時、ブレードホースはなるべくゆるやかに曲げてください。急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損の原因で漏水して家財などを濡らすおそれがあります。  
【注意1】  
・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。  
・鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)  
・上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動すると、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。  
・ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。  
・ブレードホースを曲げる際、銅パイプ固定プッシュがはずれないように注意してください。(C図)  
【注意2】ブレードホースは切断しないでください。

はめ込む ブレードホース 【注意】つば すき間なく合うまで差し込む  
ジョイント

C図 A図 B図  
銅パイプ固定プッシュ(白)はずれないように

#### ③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばに、はめます。

【注意1】ブレードホースを上へ引っ掛けて、抜けないことを確認してください。

ブレードホース 抜けないことを確認  
はめ込む クイックファスナー

#### ④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。

この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで降ろします。

1. はめる 2. 降ろす  
保護キャップ クイックファスナー  
ブレードホース

### 5 シャワーホースの接続(ホースガイド付き・無し仕様、またそれぞれの一般地・寒冷地仕様によって接続方法は異なります)

ホースガイド付き仕様	ホースガイド無し仕様	接続方法	
		一般地仕様	寒冷地仕様
①	①	同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。 【注意】ホースガイドは壁面に固定しないでください。	この部分にはめ込んでください はめ込む プラグ
②	②	シャワーホースに付いているホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、(1)ホースガイドAにはめ、(2)カプラーユニットが下向きになるように90度回転させます。 【注意1】固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、銅パイプ(又はブレードホース)に引っ掛けたり、ひねったりしないでください。 【注意2】ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。(C図)	A図 B図 C図(横から見た図) シャワーホース 銅パイプ(又はブレードホース) 1. 平行にはめ込む 2. 90度回転 ホースガイドA 凸部 ホースガイドB カプラーユニット 下向きに 凹凸部が合っているか確認
③	①	上記と同様に、(1)同梱のホースガイドBをホースガイドAにはめ込み、(2)シャワーホースをホースガイドBに上から通します。	シャワーホース 1. はめ込む (上記参照) ホースガイドA 2. 上から通す ホースガイドB
④	②	同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。 【注意1】締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約200N・cm) 【注意2】カプラーは樹脂製ですので、手で強く締め付けてください。シャワーホースをねじらないでください。 【注意3】シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。破損する恐れがあります。	パッキン セレーション部 ここに工具をかける シャワーホース プライヤー等で固定 水抜きユニット
③	①	カプラーユニット(寒冷地仕様は水抜きユニット)はキャップをはずし、スライダーを下に降ろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下に降りている場合もあります。)最後に確実に接続されているか確認します。	降ろさない状態 スライダー カプラーユニット 降ろす 降ろす キャップははずす カチッ カプラーユニット 押し込む ※ 図はホースガイド付仕様

【注意】シャワーホースは止水栓に引っ掛けず、給湯・給水パイプの間にぶらさけて取り付けしてください。

流し台に水受け用タンクがある場合 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることで左右に振ることができます。